

No.	2	石田 卓成
質問事項	1	受付窓口の一本化について
<p>現在、各自治会が主体となつて行う、生活道路や水路の維持・補修に使う、生コンや簡易アスファルト、碎石、チップソーなどの資材支給や、水路の清掃時に排出される汚泥処理の受付窓口は、道路課、河川港湾課、農林漁港整備課、生活安全課と様々でございますが、地域の自治会長さん達からは、どこの窓口に行けば良いのか非常に分かりにくいとの声を耳にしますので、これらの受付窓口を一本化することが出来れば良いのではないかと考えております。</p> <p>このような生活道路や水路の維持管理の問題については、我が市においても、現在、資材支給などがされているものの、厳しい財政状況の中、必要な予算の確保が難しく、なかなか住民の要望に応えきれていない状況が続いております。</p> <p>昨年10月に、産業建設委員会で視察に伺わせて頂いた延岡市の協働・共汗道づくり事業については、市民の皆さまが普段利用されている市道や里道が地域の共有財産であるとの考えのもと、地域にお住まいの市民の皆さまと市との協働・共汗により、身近にある道路の簡易な改良工事を行う事業でございます。具体的には、自治会などの団体が行う、簡易な道路舗装工事や、道路側溝の蓋掛け工事などを対象に、コンクリート等の必要な原材料や、コンクリート製側溝などの製品を市が提供し、併せてバックホー等の機械や器具などを貸し出し、地元の皆さまの労力提供を受け、市の職員が技術支援を行い、共に汗を流しながら整備することを目指す事業であり、大変素晴らしい取り組みだと感じました。</p> <p>防府市自治会連合会からも、昨年11月29日に出された要望書の中で、住民参加による協働の道づくり地域支援制度の創設についての要望がなされておりますが、このような市民と共に汗を流す事業については、早期に実施して欲しいと願っております。</p> <p>そこで、1つ目の質問でございますが、まずは様々な課で行われている現在の資材支給の受付窓口について一本化して頂くことはできませんでしょうか。また、自治会連合会からも要望が出されている住民参加による協働の道づくり地域支援制度の創設について、どのように考えておられますでしょうか。執行部のご所見を伺います。</p> <p>次に、今回の当初予算でも力を入れてくださっている空き家の対策でございますが、現在は、生活安全課が空き家実態調査や、特定空家を所管し、政策推進課が利活用や全国版空き家空き地バンクへの登録を担当しておりますが、これらの窓口を一本化して頂きたいと考えております。</p> <p>この空き家の問題でございますが、これ以上、再利用が不可能な特定空家を増やさないためには、いかにして利活用を促していくかが非常に大切になります。</p> <p>私の想いと致しましては、今後、空き家の利活用については、市街化区域と、市街化調整区域を分けて対応し、市街化調整区域の物件の利活用については、各地域の自治会長などから物件の情報を積極的に集め、昨年から利用されている全国版空き家空き地バンクに情報を掲載し、田舎暮らしを考えているUJIターン希望者に向けて積極的にPRをしないと、利活用も進まないし、物件に付随する農地の利活用も進まないと考えておりますので、是非、関係機関などとも調整をされた上で、解決に向けて全力で頑張りたいと願っております。</p> <p>そこで、2つ目の質問ですが、まずは空き家関係の相談の受付窓口を一本化し、相談に来られる方が、どこに行けば良いのか迷わなくて済むようにして欲しいと願っておりますが、いかがでしょうか。執行部のご所見を伺います。</p>		